

発注者責任を果たすための今後の建設生産・管理システムのあり方に関する懇談会
維持管理部会（令和3年度第1回）議事概要

日時：令和3年12月23日(木) 15:15～17:00
場所：中央合同庁舎2号館1階共用会議室3A・3B
※WEBシステムを併用して開催

委員からの主な発言

維持管理部会における議論の経過

- ・ 特になし

維持管理における週休2日の取組

- ・ 天候など不確定要素に左右されるような工事があることを考えると、個人ベースで週休2日を取り入れ企業側の努力で色々と調整する余地を残しておいた方が良いのではないかと。
- ・ 閉所をある程度基本として考えないと現状は変わってこないが、閉所だから土日を必ず休むようにするのは厳しいのではないかと。多くの企業が休みとしている日曜日は閉所としても、それ以外の閉所日については柔軟性を持たせた方が良いのではないかと。また、地方自治体が発注する工事でも週休2日を実施していくとすると、発注者の意識改革を徹底的に行う必要がある。
- ・ 現場閉所を基本としてやむを得ない場合だけ交替制にするよりは、現場閉所か交替制かは受注者側で自由に選択させるという考え方もあって良いのではないかと。現場閉所の前提として、土日休めば家族と過ごせるというのは少し古い考え方ではないかと。もう少しフレキシブルに考えてもいいのではないかと。
- ・ 今後、主任技術者の専任など、建設業法上の規定との関係の整理も必要ではないかと。

道路除雪工における積算方法の改善

- ・ 会計法上の制約はあるかもしれないが、除雪機のオペレーターは極めて不安定な就労形態であり、雪の降る時期に必要なオペレーターの固定費用を事前に想定して計上するという方法も考えられるのではないかと。
- ・ ICT建機を活用した除雪等によるDX化を進めることで、低コスト化や担い手の確保を進めてほしい。
- ・ 除雪機械を新規購入する余裕がない企業も多く、貸与を前提として検討されたい。
- ・ 今回提案の手法が妥当なのか、全国で検証されたい。

維持管理の担い手確保について(維持管理のイメージアップ)

- ・ 技術者と技能者では圧倒的に技能者の数が多く、状況も厳しい。技能者を対象とした検討も必要ではないかと。

- ・ 地方部の維持管理をおこなっている企業は、見学会やインターンシップをおこなえるポテンシャルはなく、就職関係活動のため他の会社とも協力できない。建設業協会や団体が包括的に行えるような仕組みを構築するべきではないか。
- ・ 維持管理の従事者にプライドを持ってもらうことが重要。特定のビブスを着用してもらうなどイメージ戦略を図ることで、魅力ある職場として認知されるのではないか。
- ・ 維持管理工事については、緊急性をそれほど要しない案件でも夜中に発注者から呼び出されるものも多く、維持管理の担当者が退職するケースが非常に多いという話も聞く。維持管理工事の労働環境の改善も必要。
- ・ 維持管理は仕事に対しての達成感が比較的少ないと感じる。維持管理のやりがいを感じられるようにするには、受発注者双方で対応を考える必要がある。
- ・ 発注者側だけでなく、業界側でもインターンシップや出前講座等を実施しているが、認知度が足りない。明るい希望を持った職種であるためには、発注者側と業界関係者が互いに協力しあいながら取り組めればよい。

長期性能保証制度の取組状況について(報告事項)

- ・ 技術評価制度を導入した際、結果的にオーバースペックの提案が多発した経緯がある。長期性能保証制度についても、結果的にオーバースペックを誘導させるような制度になっていないか検証が必要。

災害復旧における入札契約ガイドラインについて(報告事項)

- ・ 特になし

全体を通して

- ・ 今後 50 年、100 年の見通しの中で、インフラの管理体制をどう構築するのかという観点での検討が必要。短期的な課題に加えて、中長期的な課題への取組についても一貫して本部会で検討を進めて欲しい。

－以上－